

茨城 全研ニュース #4

認知症の人と家族への援助をすすめる
第35回全国研究集会 in 茨城

公益社団法人 認知症の人と家族の会 茨城県支部
事務局／〒300-1292 茨城県牛久市中央3丁目15-1
(牛久市保健センター隣)
TEL/FAX 029-828-8089
E-mail Alz2010ibaraki@yahoo.co.jp

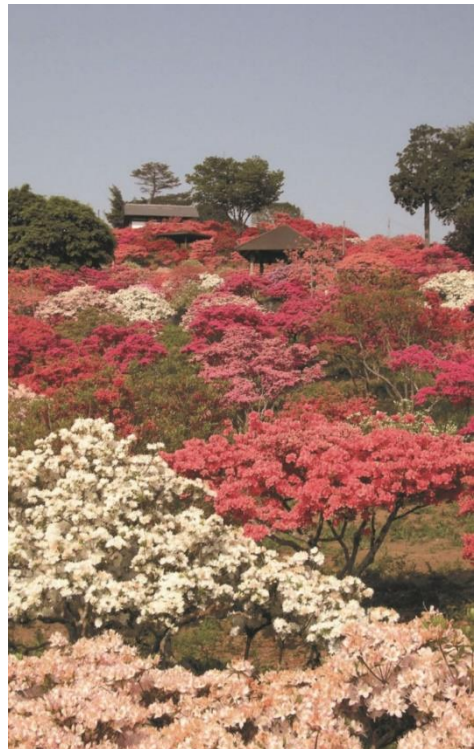
今年の全国研究集会は茨城県つくば市で開かれます。

今年の全研が行われる茨城県は、なぜか魅力度ランキングは毎年最下位を誇って(?)おります。しかし、不思議と、多くの県民は、この現状にあまり不満を感じていないようです。皆、それぞれの地域でこじんまりと楽しく暮らしているということかもしれません。写真は県中央部にある笠間市のつつじ祭りの様子です。笠間市は笠間焼で有名な焼き物の町で、ゴールデンウィークにはつつじ祭りと同時に、陶器市の出る陶炎祭（ひまつり）も行われます。

今年のテーマは「つなぐ」です。認知症はもはや当事者とその家族だけでは対処しきれない時代です。ご本人達を取り巻く様々な立場、職種の人達が一丸となって応援していく、正に地域力が試される時代を見据えたテーマです。

家族の会の努力もあり、今では認知症はメディアでも多く取り上げられています。そのお陰で、認知症という病気の存在は広く知れ渡り、今や多くの方がその症状や介護の知識を持っています。そのため、自身がMCI 或いは軽度認知症と診断されても、頑なに否定したり自暴自棄になったりせずに、落ち着いて将来の事を考えられる人が増えてきました。若年性の方の多くはまだ働けるし、働きたいと思っていますが、社会の方がそれに追いつけず、多くの方が持てる力を発揮できずにいます。そこで今回は茨城県社会福祉士会副会長の椎名清和先生に、認知症を取り巻く社会の状況について聞きました。

・若年性認知症対策の現状は？



「誰もが認知症を持っても働いていける社会にしていかなければなりません。社会福祉士や産業保健師の活躍が求められる分野ではありますが、まだまだ本人の能力と職種とのマッチングが上手く行っていないのが現状です。今の時代、会社にしてもベテランに離職されても困るわけだから、もっと国全体としてサポートすべきです。社会福祉士会としては成年後見人のサポートを請け負ったりもしています。」

・地域力について

「サロンのようなものがあるといいですね。皮肉な事に、地域の病院の待合室がそれに最も近いかも知れません。認知症カフェなどが行われてはいますが、行政主導ばかりでなく、外食産業やコンビニのイートインとか、もっとオープンに、もっと自然に立ち寄れる形を目指したいですね。行政としては『認知症に優しい』という事で、そうした企業に認証を与えたり補助する等といったやり方もあるかも知れません。」

・軽い人は黙っていれば分からないですよ？

「カミングアウトはすべきです。黙っていてもいい事はありません。頑張って取り繕ったりせずに、素を見せてくれた方がいいと思います。あまり認知度は高くないのですが、家族の方にも介護休暇という制度がありますので、堂々と介護して頂いたらいいと思います。」



・認知症、随分知れ渡って来たのでは？

「但し、知って欲しい所には必ずしも届いていないのが現状です。興味関心のない人達にどう伝えるかが課題です。そういう所を狙って啓蒙活動を行う必要があるでしょうね。例えば、確定申告に来ている人に対し、待ち時間の間とか、『認知症』という言葉に先入観が働いてしまうのは、やはりまだ十分には知らないからだろうと思います。極端な話、知らなくても優しくしてくれるならそれが一番理想かもしれません。正しく理解しないまでも、偏りなく知ってほしいですし、認知症の人にはもっと人目に触れてほしいと思います。」

“つなぐ” ～認知症の人とその家族が地域の人と共に生きる社会～

2019年10月27日(日)9:30～15:30

つくば国際会議場(〒305-0032 茨城県つくば市竹園 2-20-3)

今年度のテーマを踏まえ、実践や体験を募集しています。

- ◆ 発表時間:口述発表 15分程度
- ◆ 応募方法:発表テーマとその内容(約 1,000 字程度)、住所、氏名、年齢、職業を明記して、メールまたは郵便でお寄せください。(締切:2019年6月20日)
- ◆ 応募先:E-mail:office@alzheimers.or.jp,
郵送:〒602-8143 京都市上京区猪熊通丸太町下る仲之町 519 番地
京都社会福祉会館内
「家族の会」本部事務局 全国研究集会事例発表係